やまがた わいわい 子育て

県の先輩ママ家庭訪問事業　活動スタートから3ヵ月

こまやか支援 大助かり

1対1で遊ぶ時間もてる
通院時の付き添い「感謝」

専門的な研修を受けた先輩ママが子育て家庭を訪問する県の「先輩ママの家庭訪問支援モデル事業」の活動がスタートして3カ月余り。利用者の反応は上々で、県の委託を受けて訪問をコーディネートしている4団体の中には、予想以上の申し込みがあった所も。利用者の1人で息子2人の子育て真っ最中の山崎奈美さん(28)＝山形市＝方にお邪魔し、話を聞いてみた。

12月のある日。「こんにちはー」。山崎さん方を訪れた先輩ママの小松たみ子さん(62)＝寒河江市＝が玄関先であいさつすると、生後6カ月の次男翔太君をおんぶした奈美さんが出迎える。そばには長男で2歳11カ月の陽翔（はると）君。

9月下旬から始まった訪問もこの日で7回目。陽翔君はすっかり小松さんに心を開いている様子で、早速一緒に遊び始めた。「おもちゃが1個ないの」「どこかな。お母さんに聞いてみようか」。奈美さんがそばにいなくとも2人で親しげな会話を続け、まるで本当の家族のようだ。

それでも、奈美さんがおんぶしていた翔太君を小松さんに預けると、陽翔君は途端にママっ子に。抱っこやおんぶをせがんでぴったり。「小松さんが来てくれると、私に甘えられることが分かるみたい」と奈美さん。陽翔君の要求に全力で応えながら「1対1で思いっきり遊んであげられるから、陽翔のストレス軽減にもなっているみたい」と元気いっぱいのわが子の姿に目を細める。

訪問支援は、利用者のニーズに応じて柔軟に対応している。奈美さんが特に助かっているのは子どもの通院への付き添い。ぜんそく持ちの陽翔君の定期健診と、翔太君の予防接種は同じ病院で行っているが、やんちゃ盛りの陽翔君は待合室でなかなか落ち着いてくれない。「目が離せないので、小松さんが一緒にいてくれて本当に助かっている」と感謝の言葉を口にする。

会社員の夫の転勤で2年半前に山形市に移り住んだ山崎さん一家。夫婦とも県外出身で、夫は休日出勤もある忙しい身。自然と母子だけの時間が長くなり、少しでも人手が欲しいと、翔太君の誕生をきっかけに訪問支援を申し込んだ。奈美さんは「気軽に話もできるし、仕事ではなく、子どもたちのことを本当にかわいがってくれていることが伝わる。最初は見ず知らずの人を自宅に上げるのに抵抗感もあったけど、今は利用して本当に良かった」と話す。

訪問支援は8月から県内4地区で順次スタート。県の委託を受け、訪問をコーディネートする県内4団体のうち、村山地区を担当する山形市の「NPO法人やまがた育児サークルランド」では、計8回の養成講座を受けた先輩ママ9人が登録。これまで19世帯で活動している。予想以上にニーズが多く、通常は先輩ママのアドバイス役を担うオーガナイザーも臨時的に訪問を行うなどして対応しているのが現状という。

オーガナイザーの相談役を務めるやまがた育児サークルランドの酒井由美子さん(63)＝上山市＝は「特に複数の子どもを持つ母親から子どもの検診や予防接種、自身の歯医者への通院時などの付き添いに感謝されている。利用者の中には福島県からの避難者もおり、今後もニーズが増えると予想している。来年2月23日からまた先輩ママの養成講座を行うので、多くの人に参加してもらいたい」と呼び掛けている。

「先輩ママに子どもの面倒を見てもらえるので家事もはかどります」と山崎さん　＝山形市

お出掛けの際も同行するなどニーズに合わせ支援している　＝山形市

訪問支援の一場面。山崎奈美さん（左）の長男陽翔君、次男翔太君も先輩ママの小松たみ子さん（右）にすっかり懐いている　＝山形市

メモ

先輩ママの家庭訪問支援モデル事業　イギリス発祥の「ホームスタート」がモデル。子どもの数が多かったり、転居したばかりで自宅にこもりがちな母親たちを支援する取り組み。「傾聴ボランティア」を基本とし、主に6歳以下の子どもがいる家庭を先輩ママが週1回のペースで2時間程度訪問、話し相手になったり、一緒に外出するなど支援活動を行う。利用料は無料。問い合わせは山形市のやまがた育児サークルランド023(673)9336、新庄市のNPO法人はぐくみ保育園0233(22)1276、酒田市のNPO法人にこっと0234(23)6330、米沢市のNPO法人スマイルハウス0238(21)3494。

ご意見、ご感想は山形新聞報道部子育て係　ファクス023(641)3106、メールkosodate@yamagata-np.jp、〒990－8550、山形市旅篭町2の5の12まで